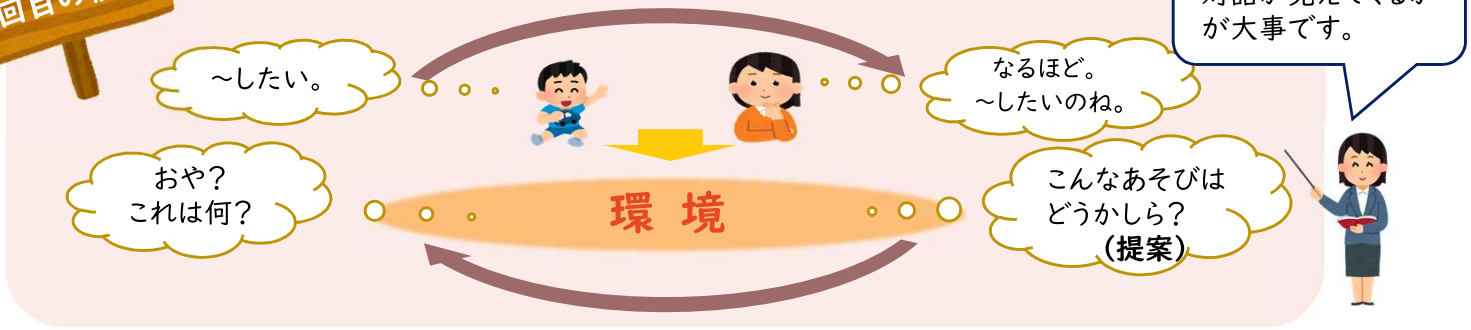
令和５年度　幼児教育研修（年齢別担任研修１歳児・第２回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
日時：令和５年１０月１８日（水）１５：００～１７：００
会場：足立区勤労福祉会館
講師：相模女子大学　准教授　金元　あゆみ　氏

子ども理解と遊びの環境

１回目の復習

環境は子どもと保育者の対話によってつくられます



子どもにとっての環境とは？

考えてみよう！

映像から、**子どもが感じている面白さ**、子どもと**環境との関わり**や**保育者の関わり**、**意図・工夫**などを考えながら意識化してみてみよう。

事例１　小さな研究者

●スプーンで（泥）水をすくい別の容器に移す。
●様々な道具を手にし、遊んでいる。
●たわしに出会い、机の上の泥を伸ばしている。
●没頭して遊ぶこと、１２分以上。

子どもにとって自然や道具は、試したくなる・試せる存在

あらゆるものと対話

◆子どもの頭の中で、ひらめきが連鎖している。
→なにこれ？　つぎはこれ！

◆道具の置き方
→ものが豊富過ぎると遊べなくなってしまうことがあるが、今のこの子にはちょうど良かったので、長時間遊びに没頭できた。

モノの反応を受け止め、モノの声を聴ける環境を考える。

事例２　ネットの向こう側

●子どもがネットの裏側に入る。
●保育者はそれをみて、ネットに近づいていく。
●保育者は反対側で、子どもの動きを真似する。
●そのやり取りを見ていた、他の子どもたちが近づいてくる。

子どもにとって保育者は、安心・信頼・共有してくれる存在

保育者との信頼関係

子どもが、やりたい！　こうしたい！に出会ったとき
保育者は　支え、導き、見守り、**一緒に楽しむ。**

自分の気持ちを分かろうとしてくれる存在は、信頼へつながる。

子どもにとって環境がどういう存在になっているか？を問い続けていくことが大事

・園庭・・・ここは面白い場所（存在）
・他児（友だち）・・共に味わう・交わり合える存在
・室内空間・・・くつろぎ・安心・面白い場所（存在）

保育者同士のチームワーク

「雑談」（日々のコミュニケーション）の重要性

子どもの「かわいかった。」
「面白かった。」　などの
エピソードを職員同士で共有する。

→

自分が気付かなかった
子どもの姿を知ることができ、
子ども理解につながる。

そんなことが
あったんだ！

子どもの姿を分かち合える仲間は、複数担任の良さです。
何気ない日々の雑談の積み重ねがチームワークを支えていきます。

自園の環境を見直してみた（各園の事例から）

部屋の中を、走り回っている姿をよく見るなぁ。
他の子とぶつかったら危ないなぁ。

この頃、おもちゃ棚の上に登ろうとする姿が多くみられるようになって、困ってます。

「危ない」「困った」への工夫を考えた。

子どもがやりたいことを、
思い切り楽しめる環境を作った。

↓

子どもの思いが見えてきた。

すぐに制止せず、子どもの
やりたいことは何かを見守った。

↓

子どもの遊びに面白さを感じられた。

禁止の言葉を使わず、
肯定的な言葉かけを意識した。

↓

保育者も一緒に楽しんだ。

先生たちが、
自分の変化に
気付いている。

保育者のまなざしが変わると、子どもが見えてくる。

↓

子どもが見えると、保育が変わる。

「どうしたらいいか？」から、何を大切にしたいか へ。

こうなりたい
こうありたい

「いま、ここ」の思い

思いを**調整**して
対話しながら
保育を築いていく

育ちへの願い

こうなって
欲しい

子どもの気持ちに寄り添い続けることが大事。

研修生の報告書より

子どもたちの遊んでいる様子を見ることで、遊びの中でやりたいこと、やってみようと試行錯誤していることが見え、子どもたちはよく考えて遊んでいた。その姿を見守り、受け止め、応答的に共感していくことが改めて大切であることに気づいた。どうしたら子どもの願いを叶えられるのか。何を大切にしたいのか。一人一人の姿を見取っていき、寄り添い続けることに意味があることを学んだ。

チームワークの話の中で、オフィシャルな話も大事だか、日々のささいな「これかわいかった」「これ面白かった」というエピソードを分かち合える関係性も重要であると学んだ。日々のささいな出来事をクラスの職員と共有することを意識した。自分が伝えるようになると相手も伝えてくれるようになり、自分が見ていなかったところのエピソードをたくさん知ることができた。